



想いつながらる、
笑顔あふれる。

vol. **2**

市民公益活動団体の
魅力を発信

Mar.2026

YOKOSUKYA LINK



市民が主役の笑顔が輝くミュージカル

横須賀市民ミュージカルを作る会

代表 三田 希美子さん

歌って、踊って、
横須賀を元気に

歌やダンス、そして物語を通して、横須賀のまちに新しいつながりを生み出している「横須賀市民ミュージカルを作る会」。2001年に始まった同会は、コロナ禍による公演中止など様々な困難を乗り越え今年25周年を迎えます。

子どもから大人まで、年齢や経験を問わず集まった市民が一緒に舞台をつくり上げるこの活動は、これまで数多くの感動を届けてきました。プロの演出家や音楽家の指導のもと、一般公募が集まった市民が半年ほどかけて稽古を重ね、横須賀を舞台にしたオリジナルのミュージカルを完成させるのが大きな特徴です。歌やダンスが初めてという参加者も多く、最初は「できるか不安だった」という声も聞かれますが、稽古を重ねるうちに少しずつ自信が芽生え、仲間との一体感が生まれていきます。稽古は市内の施設を中心に行われ、真剣な練習の中でも笑顔が絶えない温かい空気が稽古場には流れています。

代表の三田さんもキャストとして参加し、時に平和中央公園で台本を広げ、セリフを覚えていることもあるそう。「表現することを楽しみながら、見てくださるお客様を笑顔にしたい」とそんな想いが込められた舞台には、見て聴いて楽しい仕掛けが細部にまで施されています。

交流や関係づくりの場にしたい

活動を通して生まれるのは、作品だけではありません。世代を超えた交流や仲間との出会いなど、家や職場、学校とは別の参加者にとって大切な「居場所」となっています。同会を運営するメンバーの多くは、小学生時代に参加したときに出会った同年代の仲間で、「育てられた世代が、これからの舞台をつくっていきま

す」と語る三田さん。
2026年8月には、25周年記念の特別公演「Let's Sing! Swing!」の開催が予定されています。戦後のEMクラブ隆盛時代を生きた人々に焦点を当てた物語が、懐かしのジャズミュージックにのせて展開されます。世代を超えて楽しめる舞台を、ぜひ客席から味わってみてはいかがでしょうか。

想いをのせて!

一人ひとりの想いが重なり、歌とダンスが物語になる瞬間。積み重ねてきた稽古の成果が、舞台上でいきいきと輝きます。



自然と笑顔に

稽古の合間、年齢も立場も違う仲間たちが集まれば、自然と笑顔が咲きます。同じ舞台を目標に切磋琢磨する時間が、人と人との距離を少しずつ近づけていきます。



緊張したけど楽しかった!
また来年もお楽しみに♪



公演ごとに毎年作られるオリジナルTシャツ。今年はどうなデザインかな!?

団体情報

横須賀市民ミュージカルを作る会

代表 三田 希美子

Mail: yokosuka.civic.musical@gmail.com

HP





代表
川口 将人さん

海と出会い、知るきっかけを市民の手で

よこすか海の市民会議

体験を通して、知る楽しさのきっかけを

2006年に発足した「よこすか海の市民会議」は、横須賀にとって身近な存在である海をフィールドに、市民が海と出会い、学びのきっかけをつくり続けている団体です。2015年から代表を務める川口さんは、「まずは海に親しみ、その先で「知る楽しさ」を感じてもらいたい」と語ります。

同会では、市民・子ども向けの体験活動を「よこすか海遊クラブ」の名称で実施し、海の生きものや環境について、体験を通して学べる場を数多く提供しています。なかでも「海に森を作ろうよ！PROJECT」では、横須賀市リサイクルプラザ「アイクル」脇に造成された浅場を舞台に、コアマモの移植や海中観察に取り組んでいます。参加者は実際に海に入り体験することで、海草が生態系を支える役割や環境の変化に気づいていきます。体験後も継続的な観察や調査を行い、海の変化を見守り続けている点も特徴です。プロジェクト開始から3年が経過し、何もなかった浅場に生きものが住み着く環境が整ってきているそうです。

その他にも、貝殻アート体験やワカメ養殖体験といったイベントを実施しています。こうした活動を通じて、海を特別なものではなく、暮らしのすぐそばにある存在として感じてもらおうことを大切にしています。

地元企業や研究所と共に、海の今と未来を伝える

同会のもう一つの大きな特徴が、地元企業や研究者との強い連携です。「海に森を作ろうよ！PROJECT」では、移植現場のドローンや水中ドローンでの撮影、データ分析など、専門的な知識や技術の協力を得ながら、海の環境を視覚的に伝えていきます。

また、三浦市のリビエラシーボニアマリナーでは、運営企業協力のもと、モニタリング活動を実施し、情報交換を重ねながら、三浦半島全体の海洋環境について理解を深めています。近年の気候変動による影響で発見した魚や生物も地域の資源として守り、活動を通じて市民に伝えていくことで、海の現状を知り、未来へとつなげる活動を続けていきます。

コアマモに紙粘土を巻くよ！

植え付けたコアマモが波や潮の流れで流されないよう、根元に紙粘土を巻いて固定する作業に挑戦。海草が定着するまでの工夫や、海の環境を守るための知恵を学びました。



海の中を、のぞいてみよう

水槽を使って、浅瀬にすむ生きものをじっくり観察。実際に生き物を見ることで、「どこにいるの?」「なぜこの形?」と自然に疑問が生まれていきます。



子どもたちが楽しみながら行うコアマモ植え付け体験。小さな手で海の森を作っています！

団体情報

よこすか海の市民会議

代表 川口 将人

Mail : masato-k@fa2.so-net.ne.jp

HP





代表
田中 孝一さん

国や文化を越えた交流を地域で育てる

一般社団法人 横須賀ワールドフレンドシップ協会

遊びから生まれる
交流の輪を広げる

一般社団法人横須賀ワールドフレンドシップ協会は、横須賀を拠点に、日本人と外国人が気軽に交流できる場をつくる団体です。2021年7月の設立以来、「国籍や年齢を越えて、同じ時間を一緒に楽しむこと」を大切に活動しています。

代表の田中さんは横須賀出身でもともと英会話教室を運営していました。一方、転勤で横須賀に移住した理事の松永さんは、外国人が多く暮らすまちでありながら、地域との接点が少ないことに違和感を抱いていました。共通の知人を介して出会った二人は、「英語を学ぶ場ではなく、遊びながらつながれる場を作ろう」と意気投合し、団体を立ち上げました。

設立当初は、日本文化を体験したい外国人と、国際交流を楽しみたい日本人の目的の違いからイベント内容に悩んだそうです。現在では、季節に合わせて節分やイースター、七夕、お月見、クリスマス・お正月会など双方が一緒に楽しめるイベントを開催しています。互いの文化を一緒に体験することで、言葉が通じなくても体験中に自然と会話や笑顔が生まれ、参加者同士の交流の輪が広がっています。同じ時間を重ねる中で文化の違いが少しずつ身近なものになっていく、そんな交流を大切に育んでいます。

「英語を学びたい」より、「友達を作りたい」

同会では、英語を勉強することよりも、遊びや体験を通して多国籍の友達を作ること大切にしています。田中さんは、英語が分からなくても「まずは飛び込んでみよう」という気持ちこそが、交流の第一歩になると話しています。

特に、子どもの頃に同年代の外国人の友達と関わる経験は、横須賀という国際色豊かなまちでも意外と少なく、とても貴重な体験です。言葉が完璧でなくても、同じ遊びや時間を共有することで距離は自然と縮まっていきます。少しでも楽しそうだと感じたら、気軽にイベントをのぞいてみませんか。交流を通じた新しい出会いが、きっと待っています。

お菓子の家を みんなで飾り付け♪

アメリカの家庭で親しまれているクリスマス文化「ジンジャーブレッドハウス」。みんなでお菓子の家を作り、楽しみを共有しました！



日本語と英語が自然に行き交うおやつ時間

『一人一つだよ!』、『One for each person!』と日本語と英語を交えながら参加者におやつを配る、松永さん(左)と田中さん(右)。

びよ〜んと伸びるお餅に、みんな思わずにっこり♪



思い思いに仕上げた、世界にひとつのジンジャーブレッドハウス完成!

団体情報

一般社団法人
横須賀ワールドフレンドシップ協会 HP

代表 田中 孝一
Mail : info@world-friendship.com





代表
天崎 省二さん

思いやりをチーム力に変えるサッカークラブ

NPO法人 TADOなかよしサッカークラブ

仲間を思いやる心を育てる

横須賀市立田戸小学校をホームグラウンドに活動する「TADOなかよしサッカークラブ」は、幼稚園児から小学6年生までが所属する地域密着型のサッカークラブです。始まりは2000年、代表の天崎さんが平成町の団地へ引っ越してきたことがきっかけでした。当時、周囲には多くの子どもたちの姿があり、天崎さんは横浜でサッカーコーチをしていた経験を生かし、地域の小学生を集めてサッカー教室を開催しました。初回から小学1年生23人の子どもたちが集まり、その後も練習を続ける中、保護者からクラブ発足の声上がり、現在の活動へと発展しました。クラブ名にある「なかよし」には、勝ち負けだけでなく、仲間を思いやり、支え合う心を大切にしてほしいという願いが込められています。サッカーを通じて多くの出会いを経験してほしいという考えのもと、市内外のチームを招いたカップ戦の開催など、交流の場も積極的に設けています。勝つ喜びや負ける悔しさ仲間と共有し、他チームとの出会いから刺激を受けることも、チームにとって大きな学びとなっています。練習では指導者や選手の垣根を越えて、自然と声を掛け合える環境づくりを大切にしています。仲間を思いやる心は、こうした日々の積み重ねの中で育まれています。

競技を超えた「人づくり」の場

さらに、ゴミ拾いなどの地域活動にも継続的に参加し、サッカーを通じて地域とつながる場を広げてきました。天崎さんはホームグラウンドである田戸小学校の学校評議員を務めるなど、学校や地域との橋渡し役としても活動しています。使用するグラウンドでは、練習後に選手たち自らがゴミ拾いを行うことを習慣とし、「使わせてもらう場所を大切にすると」という姿勢を自然と身につけています。こうした取り組みは、仲間や地域への思いやりへとつながる学びの場となっています。地域に根差し、子どもたちの成長を支えるTADOなかよしサッカークラブの活動を、応援してみませんか。

最後まで諦めない！

練習でも、一歩も引かずにボールを追いかけます。激しい競り合いは迫力満点です！



仲間と分かち合う、ゴールの瞬間

白熱のPK戦！ゴールを決めた喜びをハイタッチで共有！

コーチの話を集中して聞くことが上達のコツかな！



休憩中の一コマ。笑顔を見せながらも勝利に向けて作戦会議中！

団体情報

NPO法人
TADOなかよしサッカークラブ

代表 天崎 省二
Mail : tado.n.sc10@blue.plala.or.jp

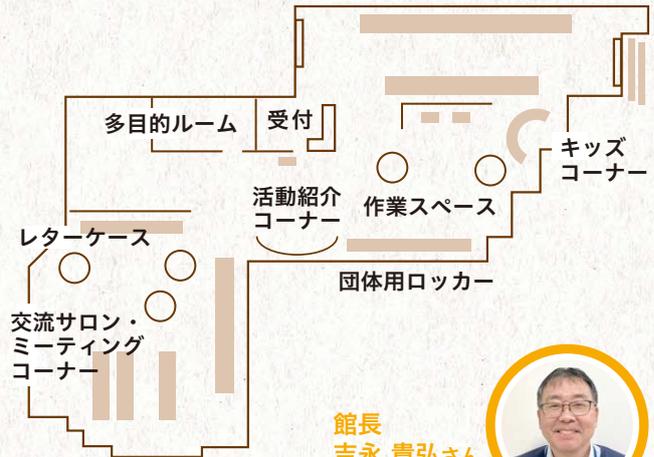


横須賀市立 市民活動の応援基地 市民活動サポートセンター

市民活動サポートセンターは、京浜急行の汐入駅から徒歩1分。福祉、社会教育、まちづくり、文化、環境、国際、災害救援など、さまざまな分野で活動する市民の皆さんを支援する施設です。ミーティングや作業ができるスペースの提供を基本に、地域の課題解決や活動のネットワークづくりを後押しする相談・情報提供なども行っています。

所在地 横須賀市本町 3-27 ベイスクエアよこすか一番館1階

01 受付



館長
吉永 貴弘さん



悩んだら、まずは受付の職員にお気軽にお声かけください。施設スペースや備品の使い方はもちろん、活動を進める中での困りごと、事業企画の考え方、広報の工夫、会計や資金調達のことなども、気軽にお話しいただけます。市民活動の「知恵袋」として、皆さんの一歩を一緒に支えます。

02 ロッカー・レターケース



「郵便物、誰の家に届く？」
「次の作業まで、備品を持って帰るのが大変…」など、そんなあるあるを解決。

03 活動紹介コーナー



パネル展示など、団体の情報発信や啓発ができるスペース。

04 作業スペース



印刷や資料の裁断・丁合などの作業ができるスペース。

05 交流サロン・ミーティングコーナー



団体の成長や仲間づくりにつながるきっかけが生まれる場所。団体の定例会などをはじめ、地域の課題解決につながる話し合い、イベント企画のミーティングに利用できます。市民活動・市民協働・横須賀をテーマにした書架も充実。



小さな子どもが遊べるスペースやベビーベッド、授乳コーナーもあるので、子育て中の方も安心。離乳食やおやつを食べることもできます。

団体登録がおすすめ！

各エリア・コーナーは「団体登録」をすると予約して利用することが可能に。



その他の応援メニュー

- 活動運営や事業展開に関する個別相談
- 他団体や地域資源（ボランティア・プロボノワーカー※）とのマッチング
- 助成金等の申請サポートや企画のアドバイス
- 活動成果の発信やメディアとの連携
- イベントや講座を通じた団体活動活性化支援

※専門スキルを活かして社会貢献するボランティア

YOKOSUKA LINKとは

横須賀市の市民協働に関する制度を活用して活動する団体の中から、市民協働審議会が選定した団体を取り上げ、その活動を紹介する「市民協働通信」です。